

*** 山頂見聞録 (マウナケア工事記録の一面) PDF ファイルで収蔵**

ハワイに建設された「すばる」望遠鏡は日本の光学赤外線天文学者が熱望した望遠鏡である。1960年、東京天文台岡山天体物理観測所に当時世界で7番目に大きい188cm望遠鏡ができて以来の待望の望遠鏡であった。この望遠鏡建設の出発点をどこにとるかは関係者によっていろいろかもしれないが、岡山の188cm望遠鏡が完成して5~6年後の1966年頃に、岡山天体物理観測所長大沢清輝教授を中心とした7人(大沢、寿岳、近藤、西村、小平、成相、中桐)が「次の大型望遠鏡の勉強会」を始めたのが出発点だと筆者は思っている。その7人の中に筆者がいた。そして1992年から「すばる」の建設がハワイ現地が始まり、筆者は1994年からすばるの建設現場であるハワイに赴き、その滞在は8年に及び、その建設工事期間の大半、マウナケア山頂に通った。そして望遠鏡が完成し観測開始を見届け2002年に帰国した。その間、1997年から2002年、標高4200mの山頂での工事の状況を「山頂見聞録」として関係者に発信を続けていた。これは筆者の目に写った、見た、あるいは工事関係者、その周辺から聞いたこと、まさに見聞きした記録である。現在のアーカイブ室新聞のように号数を付けなかったので発行した号数は俄かには分からないが、この間、山頂に通い、山頂見聞録を書いた日数は905日に上っている。

このような記録は、個人の見聞きしたことを個人の立場で記録した工事記録であり、このような見聞録を関係者に配布することは必ずしも歓迎しない人たちもいた。特に責任ある立場の人にとっては迷惑と感じていたようであるが、ハワイにいない「すばる」関係者にとっては「現場からの唯一の情報」として歓迎されていた。

この「山頂見聞」のなかには、1993年の一時期、滞在した期間の日記が含まれている。また1994年から1996年の間は、筆者は総務担当という立場でハワイに滞在し、山頂工事を検分する立場になかったため、このような記録はない。

同じような「すばる」の建設記録に「中桐新聞」と呼ばれた「大型望遠鏡室新聞」があり、これは当時「JNLT」と呼ばれた「すばる」の準備室の連絡会記録を中心にしたものであったから、週刊で155号まで、筆者がハワイに赴任するまで発行されていた。これは、すでにアーカイブ室新聞58号に「大型望遠鏡室新聞(JNLT中桐新聞)のデジタルアーカイブ」として報告してある。JNLT中桐新聞の頃は、まだパソコンが今ほどには便利でなかったが、一応パソコンのワープロで書いていた。しかし、ソフトの更新を追いかけてデータを残すなどということはしなかったため、結局は紙の記録が一番頼りになった。今回も、結局は紙で保存していた「山頂見聞録」をドキュメントスキャナーで読み込み、PDFファイルとして読み込んだ。これとて記録媒体を機器の進歩、更新を追いかけて保存しなす事を続けなければ、記録として残せないと思っている。しかし、今、現在はこのような形に

しておけば、見たい、読みたい人にはデータとして提供できる。写真 1 が、紙の記録として残っていた「山頂見聞録」の山である。レターサイズの紙で高さが 30cm は十分にある。



写真 1 1997 年～2002 年の紙に印刷された山頂見聞録

今回、PDF ファイルに取り込んだファイルの様子が写真 2 である。



写真 2 1993 年～2002 年のファイル

そして、例えば、2000 年分の 1 月～12 月のファイルは写真 2 のようである。

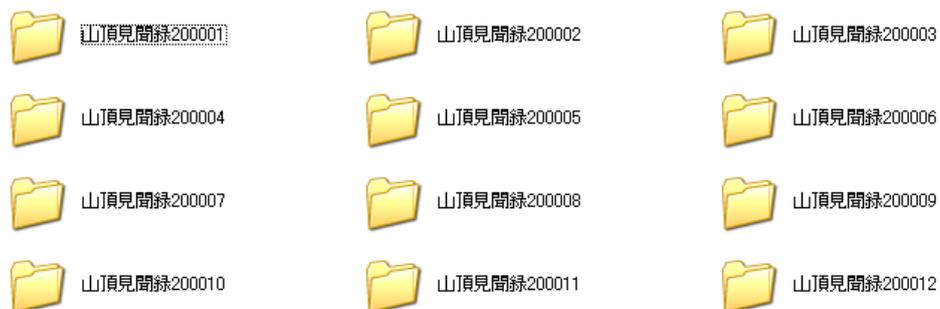


写真 3 2000 年 1 月～12 月のファイル

そして、2000年1月のファイルは写真4のようである。

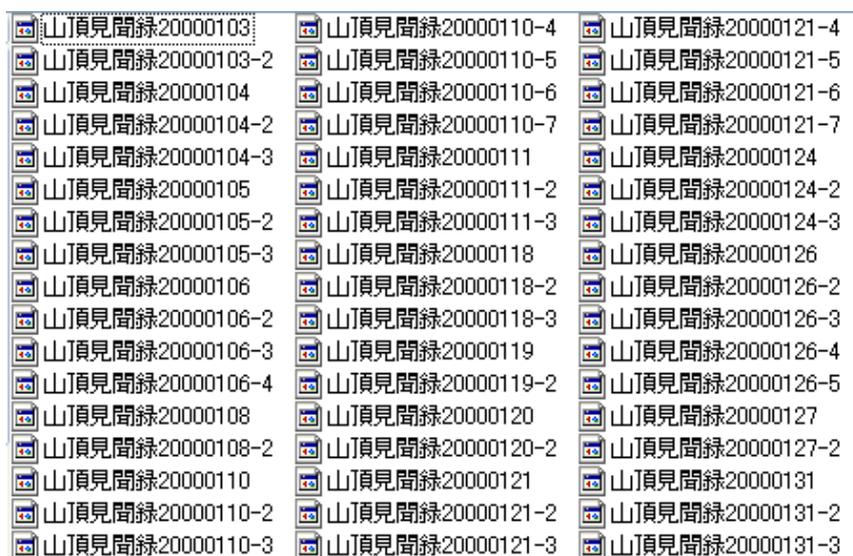


写真4 2000年1月分のファイル

次に、2000年1月3日の1ページは写真5のようである。

2000年1月3日

関係のみなさま

山頂見聞録 1月3日(月曜)

この山頂見聞録は中瀬が山頂に行った際、工事状況を検分したり、その場に居合わせた三菱の人、天文台の人に聞いたりしたこと、まさしく見、聞きしたことをメモったものです。このようなメールは迷惑であるとお考えの方にまでお送りするつもりはありませんので、そのようなお考えの方はお知らせ下ればメーリングリストから外させていただきます。お気づきの点、ご意見、感想などがあればお寄せください。

- 1) 9時20分山麓発、Zone 5 経由で山頂へ、10時40分着。佐々木、小杉、Fujitsuグループ(高良、岩井、大藤)が先着。
- 2) 気象タワーデータ(11時06分)：1)気温：3.6C、2)湿度：80.9%、3)積算雨量：423mm、4)気圧：622.7hPa、5)風速1.5m/sec、6)風向：S
- 3) 観測室気温、湿度関係：PAC-2：71F、67%、PAC-3：71F、58%、HU-3：8.2lbs/hr
- 4) Pump B：Main Power On、Mode Main、Chiller in Temperature:8.8、out Temperature:7.3、CRYOG Coolant Flow:5.09m3/hr、Temperature:9.2、Return Temperature:10.2、Pressure:12.25、Control Power: On、Chiller: Stop、Chiller Pump: Start、CRYOG Pump: Start。Chillerは、制御盤ではStopだが、MotorサイドでON。
- 5) Pump C: Main On、Mode: Main、Control: On、Chiller: Start、Chiller Pump: Start。
- 6) Pump A: Main Power On、Mode: Local、Chiller in Temperature:2.7、out Temperature:-0.5、TLSCP Coolant Flow:7.17、Temperature:1.44、Return Temperature:2.4、Pressure:13.39、Mirror Coolant Flow:3.221、Temperature:1.32、Return Temperature:3.1、Pressure:5.94、Control Power: On、Chiller: Start、Chiller Pump: Start、TLSCP Pump: Start、Mirror Pump: Start
- 7) 水：5788ガロン、59.5%。
- 8) 排熱室：63.2F、HU-1：35.21lbs/hr
- 9) 非常用発電機：1)25、2)108、3)0、4)0、5)153F、タンク：536ガロン、26.17インチ、LS3点灯
- 10) 電気：1)010300、2)1120、3)03726、4)001.70、5)03309、MDB1：4875.7、290W、MDB2：6025.8、145KW
- 11) Fujitsu UPS：36%
- 12) 給水コンプレッサー、コンプレッサー側：50psi、タンク側：50psi
- 13) 計算機室温度、湿度関係：PAC-5：64F、57%、PAC-6：67F、60%、HU-4：9.3lbs/hr、Recorder：60F、58%、PAC-4：65F、69%、PAC-1：67F、81%、HU-2：9.9lbs/hr
- 14) 名大STE研太陽中性子観測装置、OK。カウント：2238、エラー：0.86

写真5 2000年1月3日の山頂見聞録1ページ

このように、「すばる」建設時、1997年～2002年の筆者による山頂見聞録はデジタルアーカイブされた。これがどのような形で公開されるかは、これからの議論であろう。

とにかく、計算機上に呼び出すことの出来るデータとなった。この中には、筆者の使っていたパソコン上から消えてしまい、メールで配信したものを印刷したものが数件含まれている。それが紙になって残っていたから消えることはなかったが、計算機で扱えるデータとしてだけ保存しておくのは危ういものだと思っている。